

令和6年3月21日

福生市議会議長
武藤 政義 様

議会運営委員会
委員長 山崎 貴裕

議会運営委員会 行政視察報告書

本委員会は、令和5年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

- 視察日：令和6年1月15日（月）
令和6年2月8日（木）

- 視察先：東京都府中市役所（1月15日）
東京都稲城市役所（2月8日）
東京都清瀬市役所（2月8日）

- 調査事項：議場等の音響、映像及び放送設備について
 - （1）議場、委員会室の音響、映像及び放送設備の概要について
 - （2）インターネット中継の配信及び録画の配信について
 - （3）委員会中継のオンライン対応について
 - （4）放送設備のシステム導入経費について
 - （5）委託内容及び委託経費について
 - ・3年点検や5年点検など、点検サイクルについて
 - ・メンテナンス費用などのランニングコストについて
 - （6）資料提示について
 - （7）その他

- 視察参加者：委員長 山崎 貴裕
副委員長 原田 剛
委員 石川 義郎（2月8日欠席）
委員 小林 貢

委員	市毛 雅大（2月8日欠席）
委員	小澤 芳輝
委員	佐藤 弘治
委員	清水 義朋
委員	堀 雄一郎
議長	武藤 政義
副議長	青木 健
委員外議員	西尾 壽々斗
委員外議員	市川 佳樹
委員外議員	三原 智子

● 随行： 議会事務局

● 府中市の概要

- | | |
|--------|-----------------------|
| ① 市政施行 | 昭和29年4月1日 |
| ② 人口 | 259,913人（令和6年2月1日現在） |
| ③ 世帯数 | 129,724世帯（令和6年2月1日現在） |
| ④ 面積 | 29.43km ² |
| ⑤ 議員定数 | 30人 |

府中市は、東京都のほぼ中央に位置し、副都心新宿から西方約22kmの距離にある。まちの歴史は古く、今から約1,370年前の大化の改新（645年）により武蔵国の「国府」が現在の府中市に置かれたときに始まる。鎌倉時代には鎌倉街道が、江戸時代には五街道の一つである甲州街道が整備されるなど、交通の要所として栄え、甲州街道においては大きな宿場町として知られていた。



府中市議会議場にて

武蔵国の総社で、「くらやみ祭」で有名な大國魂神社がある。中世の頃から門前町としても賑わい、周辺地域の経済の中心地として発達した。明治26年に神

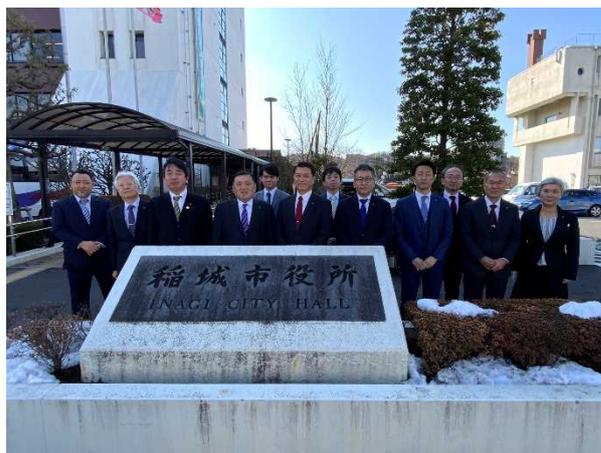
奈川県から東京府に編入され、東京都北多摩郡となり、大正5年の京王線開通と前後して公共交通や工場等の設置とともに、大手事業所が進出するようになった。昭和29年4月1日の市制施行時は約5万であった人口も、首都圏有数の都市として着実に発達し、令和6年には約26万となっている。これは、都内26市中では、八王子市、町田市に次いで第3位である。

令和4年3月には「第7次府中市総合計画」を策定し、市民と市がともに目指せる都市像を「きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中」とし、市民と市の協働によるまちづくりを展開している。市民の地元志向も高く、生活環境への満足度も高いため、市のアンケートでは、非常に多くの市民が「将来も住み続けたい」と回答している。

●稲城市の概要

① 市制施行	昭和46年11月1日
② 人口	93,738人（令和6年2月1日現在）
③ 世帯数	42,852世帯（令和6年2月1日現在）
④ 面積	17.97km ²
⑤ 議員定数	22人

稲城市は、南多摩地区の東端にあり副都心新宿から南西に約25kmに位置する。南東部より西部にかけて神奈川県川崎市と接し、北は多摩川を隔て府中市、調布市に接し、西部は多摩市に接している。日本住宅公団による1970年代以降の多摩ニュータウン建設や京王相模原線および小田急多摩線の沿線開発に伴い、多摩川流域の既存住宅地と合わせた人口が急増した。



稲城市役所前にて

市内には多摩川の支流である三沢川が流れており、かつては水稻栽培が盛んであった。今では、ぶどうや梨の生産が盛んで、フルーツのまちとしても知られている。「稲城の梨」はブランド梨として有名であり、現在でも住宅地の中に多

くの梨農園や梨の直売所を見ることができる。

サッカーJリーグの「東京ヴェルディ」、WEリーグの日テレ・東京ヴェルディベレーザのホームタウンである。また、神奈川県川崎市にまたがる「よみうりランド」も広く知られている。

●清瀬市の概要

① 市制施行	昭和45年10月1日
② 人口	74,653人（令和6年2月1日現在）
③ 世帯数	36,948世帯（令和6年2月1日現在）
④ 面積	10.23km ²
⑤ 議員定数	20人

清瀬市は多摩地域北部に位置している。昭和6年には、結核を専門とする東京府立清瀬病院ができ、これを皮切りに、周辺に次々と結核療養所が建てられた。多い時には十数に及ぶ診療所が建てられ、計5,000人もの患者を擁していた。

病院街には結核予防会結核研究所が設立され、結核に関するさまざまな研究がなされてきた。注目すべきは、結核の予防ワクチンBCGに関する研究で、現在でも、国内で使われているBCGワクチンはすべて清瀬で製造されたものであり、高品質で定評のある清瀬のBCGワクチンはユニセフを通じて世界約50か国にも提供され、世界の結核予防に大きく貢献している。

市内には金山緑地公園など緑地が多く、緑地面積は市域の約46%を占める。また、農業も盛んで、市の面積の約18%を農地が占めている。特に関東ローム層の黒土が深いことから、にんじんやごぼう、大根、里芋などの根菜類の栽培に適し、古くから都内有数の産地となってきた。昭和30年代からは、にんじんの栽培が盛んになり、現在は約7割の農家がにんじんを生産し、作付け面積、生産量ともに東京都で第1位の生産地になっている。



清瀬市議会議場にて

●調査報告

(1) 議場、委員会室の音響、映像及び放送設備の概要について

① 府中市

- ・議場カメラ4台（ズーム可能）
- ・委員会室カメラ各2台
- ・操作員1名

議場からの画像・音声はエンコードPCに送り、LANで結んだルータからVPNを通じて配信センターへ、そこからインターネット配信される方法で行われている。

② 稲城市

議場

- ・カメラ4台
- ・スピーカー4台
- ・高齢者用スピーカー2台
- ・傍聴席天井スピーカー3台
- ・液晶ディスプレイ（55型）2台
- ・小型液晶ディスプレイ3台（10型・議長席、議会事務局長席、一般質問席）
- ・各席用マイク（45台・バッテリー使用）
- ・各席用電子採決ユニット
- ・ワイヤレスマイク（緊急用）4台

映像・音響操作は、議場及びモニター室に設置されているタッチパネルで行っている。ソフトウェアは株式会社レスターコミュニケーションの「タッチ議会中継システム」を使用しており、画面構成等、稲城市用に一部カスタマイズしている。電子採決機能もあるが、使用していない。

委員会室

- カメラ1台（委員席専用）
- 天井スピーカー（ヤマハ社製6台・ポーズ社製4台）
- 赤外線ワイヤレスマイク（各席）
- 操作用タッチパネル（操作席）

ソフトウェアは本会議場同様、カメラは固定で委員席のみ映る。

※議場、委員会室ともに令和3年5月からシステム使用開始。

③ 清瀬市

議場

・ハイビジョン対応可動式カメラ3台 ・議員全景撮影（採決時）用広角固定式カメラ1台 ・傍聴席向け固定式カメラ1台 ・メインスピーカー2台 ・マイクユニット内臓スピーカー（各席） ・補助拡声用天井埋込型スピーカー4台（傍聴席） ・天井埋込型スピーカー1台（親子傍聴席） ・難聴者用ループアンテナ敷設（傍聴席：レシーバー5台） ・65インチ型モニター2台（議場内） ・7インチ型モニター各1台（登壇席、質問席） ・13インチモニター各1台（議長席、事務局長席） ・フルデジタル方式優先会議マイク（各席） ・集音マイク（超指向性コンデンサマイク）3台 ・ワイヤレスマイク4台 ・電子採決システム（議員席） ・デジタルレコーダー（長時間対応可）2台。

委員会室

全景撮影用広角固定カメラ1台、傍聴者向け固定式カメラ1台、天井埋込型スピーカー10台、移動型55インチモニター2台、赤外線ワイヤレスマイク30台、天井埋込型集音マイク3台、ワイヤレスマイク2台、デジタルレコーダー（長時間対応可）1台

（2）インターネット中継の配信及び録画の配信について

① 府中市

ライブ配信は全ての本会議・委員会で行われている。
録画配信も全ての本会議・委員会で行われている。

② 稲城市

インターネット配信用PCは委託事業者にて議場、委員会室にそれぞれ1台の計2台。ライブ映像は事業者へ送信され、事業者が稲城市の映

像配信サイトにライブ配信及び録画配信（４～５日後）を行っている。稲城市の映像配信サイトは事業者が管理・運営している。ライブ配信・中継録画は開会中の本会議及び委員会（常任・特別）のみとしている。また、本会議、委員会共に中継録画は５年分を掲載している。

③ 清瀬市

配信は、本会議（臨時会を含む）、議会運営委員会、常任委員会及び特別委員会を録画のみ行っている。閉会后、土日を除く５営業日以内に公開開始（３６５日、２４時間視聴可能）、議員任期を基本とした４年間で配信期間としている。機器類は、議場システムからカメラ、音声データをエンコードＰＣに送り、ＬＡＮで結んだルータからＶＰＮを通じて配信事業者が設置するサーバに情報が送られる。この方式は、不正アクセスによる情報漏洩を防ぐなどセキュリティの信頼性を高めている。また、動画が二次利用されるリスクも無い。また、負荷分散装置を設けて同時に数百人が視聴しても配信が止まることはないとのこと。

（３）委員会中継のオンライン対応について

① 府中市

実施していない。

② 稲城市

実施していない。今後についても未定である。

③ 清瀬市

実施していない。現時点で方法や時期は未定である。

（４）放送設備のシステム導入経費について

① 府中市

新庁舎建設に合わせて放送設備を更新。導入経費については、庁舎建設経費に含まれるため不明である。

② 稲城市

本会議場：17,700,000円（税別）・・・機器買取と工事費含む

委員会室：11,120,000円（税別）・・・機器買取と工事費含む

③ 清瀬市

賃貸借契約で、令和3年4月～令和8年3月の5年間60回払いの費用が73,411,800円（税込み）。

(5) 委託内容及び委託経費について

- ・3年点検や5年点検など、点検サイクルについて
- ・メンテナンス費用などのランニングコストについて

① 府中市

カメラ、マイク、放送設備は庁舎建設とあわせて整備されたため市の所有物で、配信用のエンコードPCは委託業者の所有物となっている。エンコードPCは1台、部屋の切替は市が行い、同時配信は不可。光回線の敷設、契約、使用料支払いは委託業者が行う。録画配信はライブ配信の3営業日から。

委託料は初期費用が550,000円、月額385,000円（議場・委員会室込み）。

② 稲城市

本会議場システム保守委託：330,000円（税別）/年

委員会室システム保守委託：330,000円（税別）/年

インターネット配信委託：3,480,000円（税別）/年

議場・委員会室ともに定例会、臨時会（年4回以上）点検

保守・点検内容は、調整、点検、問い合わせ対応、操作方法教授、故障・不具合対応、軽微な配線変更、軽微な部品交換、ソフトウェア保守等

③ 清瀬市

議場、委員会室ほか庁議室及び研修室を含む映像音響設備の機器製作・設置工事・保守・導入時の操作研修を含むリース一括契約で機器は賃貸借期間満了後、一式無償譲渡となっている。点検サイクルは、年1回実

施しており、障害発生時には技術者が原則当日中に派遣されることとなっている。メンテナンス費用は上記に含まれる。

議会映像VOD配信サービス・映像配信運用管理費は予算総額2,000,000円（令和4,5年度同額）

（6）資料提示について

① 府中市

質問席にアダプターが設置され、議場内モニターに映し出せるが、具体的な運用はされていない。

② 稲城市

行っていない。

③ 清瀬市

PC又はタブレットから、登壇席又は再質問席に設置しているHDMIコンセントにケーブルを接続することでモニター表示している。表示するモニターの選択・切り替え及びタイミングは操作席のタッチパネルで行っている。具体的な運用はされていない。

（7）その他

① 府中市

放送設備の点検サイクル等は検討中。メンテナンス費用などのランニングコストは庁舎管理費に含まれている。

② 稲城市

事業者選定については、プロポーザル審査委員会を設置し審査を行った。同委員会のメンバーは、委員長に議長が、副委員長には副議長、委員は各会派代表者と議会事務局長。

③ 清瀬市

令和4年度の視聴数は2,681回で1日平均7.3回で平日の視聴が7

1. 8%。議会専用Wi-Fiが議場、委員会室、正副議長室、議長応接室、議員控室に設置されている。

●所感

福生市においては、市議会の放送設備等の更新について考える時期にきている。そこで議会運営委員会として取組んでいる議会改革の一つのテーマとして「議場等の音響、映像及び放送設備」について、今後どのような設備にしていく必要があるか、また他市との比較検討を行う資料とするため視察を行った。

市議会は、市民にとって身近であり、意見を適切に反映する必要があるということは誰も否定はしないと考える。住民自治の根幹をなす議会は、より市民に開かれたものでなければならない。これまで、福生市議会では、本会議（臨時会を含む）をライブ配信及び録画配信してきたが、委員会については行われていない。議会でどのような議論がされているのかを発信していくには、委員会での議論や質疑応答がについても市民に公開することは、これからますます必要となるだろう。東京26市の状況を見ても、委員会におけるインターネット中継を行っていないのは福生市を含め5市のみとなっていることから、今回の放送設備更新を考える上で、議場のみならず委員会室の設備をしっかりと整えることが重要である。

今回の視察先の中では、府中市では令和5年8月、清瀬市は令和3年5月に新庁舎の建て替えと同時に議場等の音響、映像及び放送設備の導入が行われたため、工事費用等は庁舎新築費用に含まれているようだ。稲城市では、令和3年5月に既存の庁舎の放送設備の更新を行ったが、いずれの市も導入時期に大差は無く、機器等についても最新の設備を導入したことが伺えた。

議場について特に気になった点を挙げるとすれば、各市とも傍聴者への配慮がされていることである。高齢者や難聴者用に補助拡声用スピーカーが設置されたり、親子傍聴席が設置されたりと、福生市でも取り入れたいと強く感じた。資料提示については福生市は先進的で、稲城市では資料提示は行っておらず、府中市、清瀬市では表示は可能だが運用されていない。また、ズームカメラや可動式カメラが設置され発言者の表情をわかりやすく映し出すことが可能になるなどの対応をしている点も参考になった。

委員会室については、各市において各席にワイヤレスマイクが設置されてあ

ったことで、座席の移動等をフレキシブルに対応できることからこれから主流となってくるツールだと感じた。さらに各市ともに、委員会の動画配信がなされていること、そのための設備が整っていることは視察の価値があったと思う。

視察目的以外にも議場や委員会室に様々な工夫がされていた。清瀬市では座席の配置がイギリス議会式で、議員と理事者が向かい合い、横に議長席が配置されていたことは印象深い。議場と委員会室が同平面上にあり、可動式の壁を開ければ同一空間となり出席者が多い予特・決特で活用されている。また、親子傍聴席が作られており、そこでは子どもを遊ばせながら議会を傍聴できる配慮がなされていた。府中市と清瀬市では質問台が上下可動式となっており、発言者が自由に高さを変えることができる。これは車椅子を必要とする発言者にも対応できることを考慮しており、視察目的以外にも大変参考となるものを見ることができた。

この視察では参加者がそれぞれ色々な事を学ぶことが出来たと感じる。今後、議会運営委員会での議会改革についての中で納得いくまで議論・検討を重ね、福生市の「議場等の音響、映像及び放送設備について」の更新に向けた、仕様書案を作っていきたい。

最後に、お忙しい中対応してくださった府中市、稲城市、清瀬市の職員の皆さまと北浜稲城市議会議長、城野清瀬市議会総務文教委員長に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。